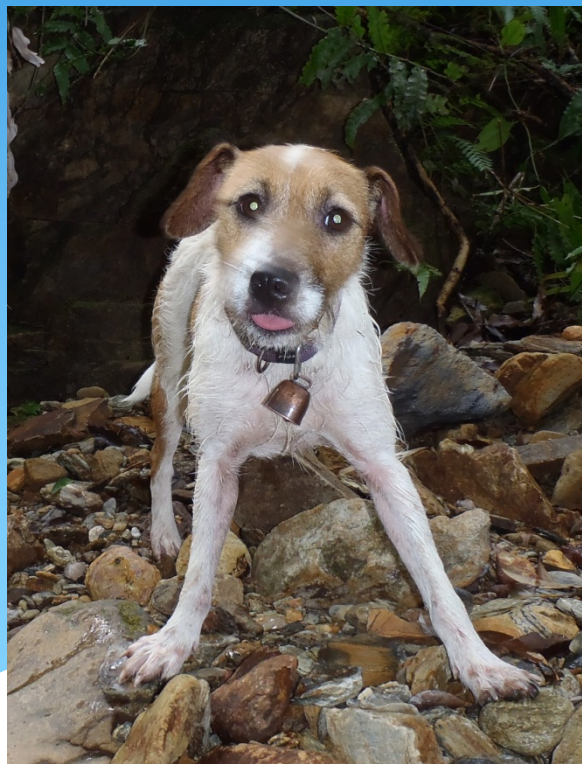


# マンゲース探索犬の育成と テリアによる探索と捕獲との 連携について



八千代エンジニアリング株式会社  
河内紀浩

# 探索犬の使用目的

## ★探索犬導入の経緯・目的



### ①シェパード⇒糞探索犬(わなルート上)

- \* 琉球大学によるマングースの効率的駆除法の開発研究により導入。
- \* マングースの根絶の確認、糞によるマングースの存在の有無を確認し、糞があればワナによる捕獲を行い捕獲効率の向上に貢献する。



### ②テリア⇒生体探索犬(面的探索)

- \* 八千代が奄美大島での活動状況を基にニュージーランドから導入。
- \* マングース根絶の確認、マングースの痕跡情報を基にしたわなかけによる捕獲効率の向上、生体と追尾し、ハンドラーによる捕獲。

主な目的として、探索犬の使命は大きく3分類される

- ①マングースの確認を行い、罠による捕獲率の向上に貢献する。
- ②マングースの生体を探索・追跡し、ハンドラーによる捕獲を行う。
- ③根絶の確認を行う。



# マンゲース事業(奄美・沖縄)における 探索犬とハンドラー情報

表1 マンゲース事業での探索犬情報一覧

No.	犬の情報						ハンドラーの情報			活動場所	備考
	犬種	名前	年齢	体重	出身	主な標的	ハンドラー	犬の取り扱い年数(担当犬との年数)	所属		
1	テリア(フォックス×ボーダー)	リム	5歳	11	ニュージーランド	生体	喜岡	24(5)	自然研	奄美大島	
2	テリア(フォックス×ボーダー)	ラタ	5歳	9	ニュージーランド	生体	山下	5(5)			
3	テリア(フォックス×ボーダー)	タワ	5歳	11	ニュージーランド	生体	後藤	4(4)			
4	ポインター	ブルック	2歳	18	鹿児島	生体	喜岡	24(0)			
5	シェパード	ユウキ	1歳	32	神奈川県	糞	白石	10(0)	南西	沖縄	育成中
6	シェパード	ランディ	7歳	27	千葉県	糞	積	20(2)			
7	シェパード	ボンゴ	4歳	39	神奈川県	糞	東江	3(3)			
8	シェパード×ラブラドル	ジュウ	3歳	39	神奈川県	糞	古堅	1(1)			育成中
9	テリア(フォックス×ボーダー)	オズカー	3歳	9	ニュージーランド	生体	安里	2(2)	八千代	沖縄	
10	テリア(フォックス×ボーダー)	ベッキー	3歳	10	ニュージーランド	生体	山城	15(2)			
11	シェパード	リバー	3歳	24	沖縄	糞	山城	15(3)			
12	シェパード	クレア	3歳	28	沖縄	糞	山城	15(3)			

備考:テリアはニュージーランド環境保全省の探索犬専門官によるブリーディング個体



奄美大島のハンドラーと探索犬



沖縄のハンドラーと探索犬(南西)



沖縄のハンドラーと探索犬(八千代)

# 探索犬・ハンドラーの育成項目

- ①基礎的な服従訓練(常時行うことが重要)
- ②移動手段(車や飛行機など)、人混み、マズルなどの馴化
- ③標的(糞や生体など)への特化
- ④標的種以外への忌避訓練
- ⑤ハンドラーの教育(標的種に対する知識、犬の健康・福祉・犬の習性等に対する知識)



服従訓練



マズル装着



スコット氏による訓練

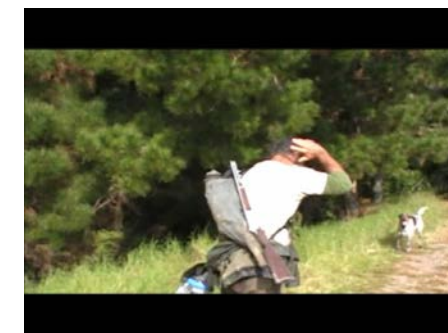
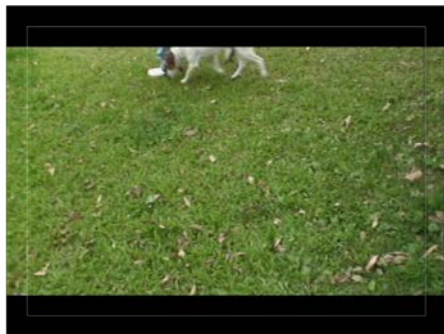


ボックス訓練

【探索犬とハンドラーはペアーで活動するため、ペアーの関係が大事】



# 訓練及び試験の実施状況【映像】



# 探索犬認定試験

テリアについてはニュージーランド環境保全省が公認する探索犬認定試験を行っている。  
試験に合格した犬とハンドラーが実務作業を行っている。

表2 ニュージーランド環境保全省が行う主な試験内容

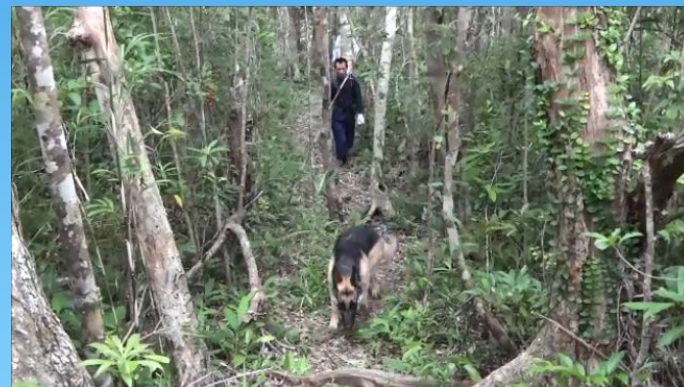
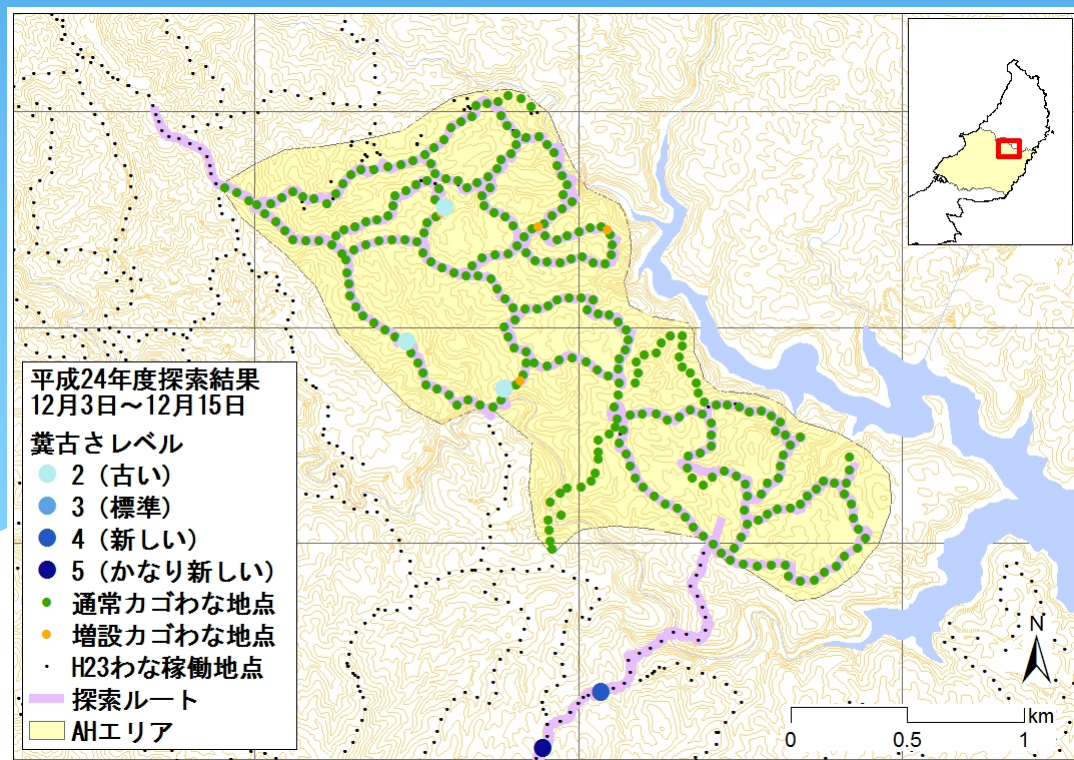
項目	内容	犬	指導手	備考
服従	ひも付き作業	○	○	
	ひもなし脚側行進	○	○	
	停座	○	○	
	止まれ	○	○	
	待て	○	○	
	来い	○	○	
	長時間待て	○	○	
	マズル	○	○	
	経験・知識	犬の取り扱い経験		○
健康・福祉			○	
目的種についての経験			○	
探索作業	マナー	○	○	犬及び指導手のマナーが良いか
	目的種外回避試験	○	○	目的種以外の動物へ脅威を与えるか
	目的種識別試験	○	○	目的種を識別できるか
	身体能力	○		断崖や河川など多様な環境で作業可能か
	犬の社会性	○		公共の場でも集中して作業可能か
	輸送	○		船や飛行機などの輸送が可能か
	ガンシャイ	○	○	銃の発射など
	毒物とわな	○	○	わな餌などに興味を示すか
	指導手の総評	○	○	

育成については終了



# ①シェパード探索犬を用いた マンゲースの糞探索

- \* マンゲースが低密度に生息している地域ではわなルート上で糞探索を行い、マンゲース生息の有無の確認を行い、それらの情報を基にわなを設置・捕獲する。
- \* マンゲースの捕獲の無い地域では糞の有無により根絶の確認を行う。





## ②テリア探索犬を用いた 効果的な捕獲手法

- \* ある一定のエリアについて面的な探索を行い、マンゲースが残した臭気・糞等を記録し、マンゲース道にソフトキャッチやカゴわなを設置し、集中的に捕獲を行う。⇒**八千代担当**
- \* マンゲースの生体探索を面的に行い、マンゲースを発見し、洞などに追い込み、ハンダーによる非わな捕獲を行う。また、根絶の確認を行う⇒**自然研担当**



林内探索風景：ベッキー

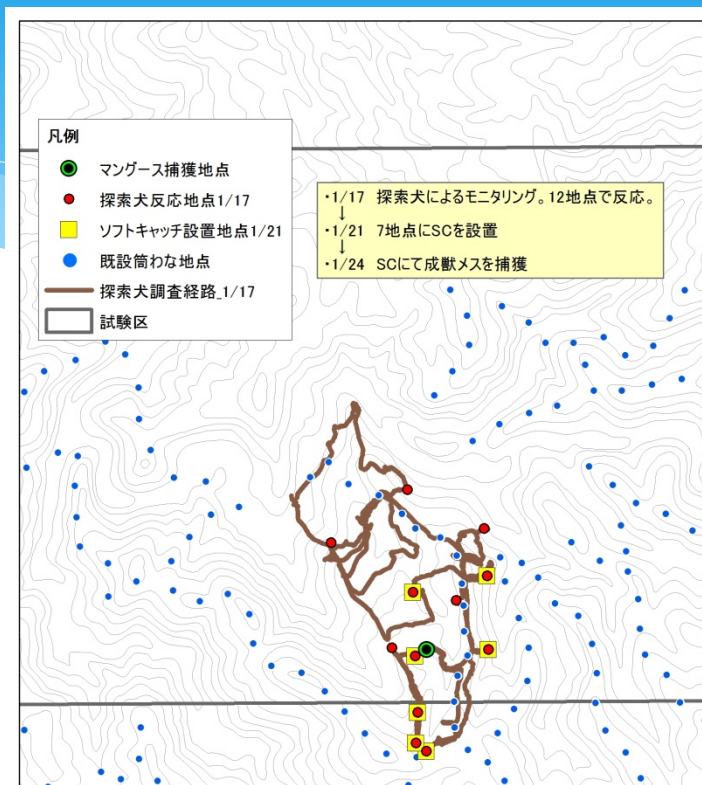
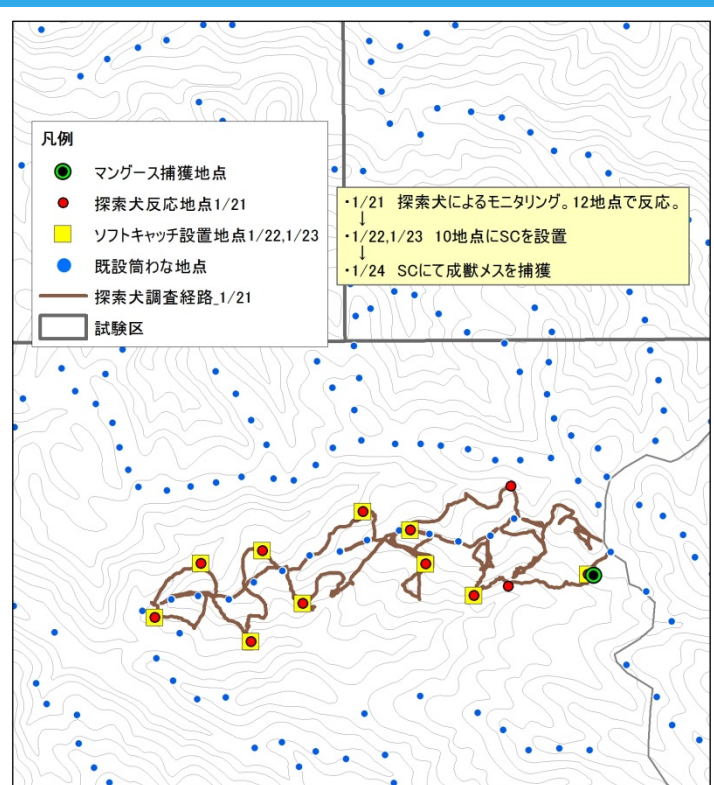
### 【探索方法】

ハンダーが探索したいエリアにおいて、マンゲースの臭気を自由に探索させる。





# 面的探索と捕獲作業との連携結果



# 探索犬により得られたマンゲースの情報を基に 集中捕獲作業を実施した結果(沖縄事業結果)

表3 探索の有無別の捕獲結果(沖縄)

年度	ルート	わな種	T D	捕獲数	C P U E	備考
H 2 3	通常ルート	カゴわな	29776	6	0.02	探索データなし
H 2 4	通常ルート	カゴわな	46567	8	0.02	探索データあり
	集中捕獲	カゴわな	23109	9	0.04	
		ソフトキャッチ	5440	11	0.20	

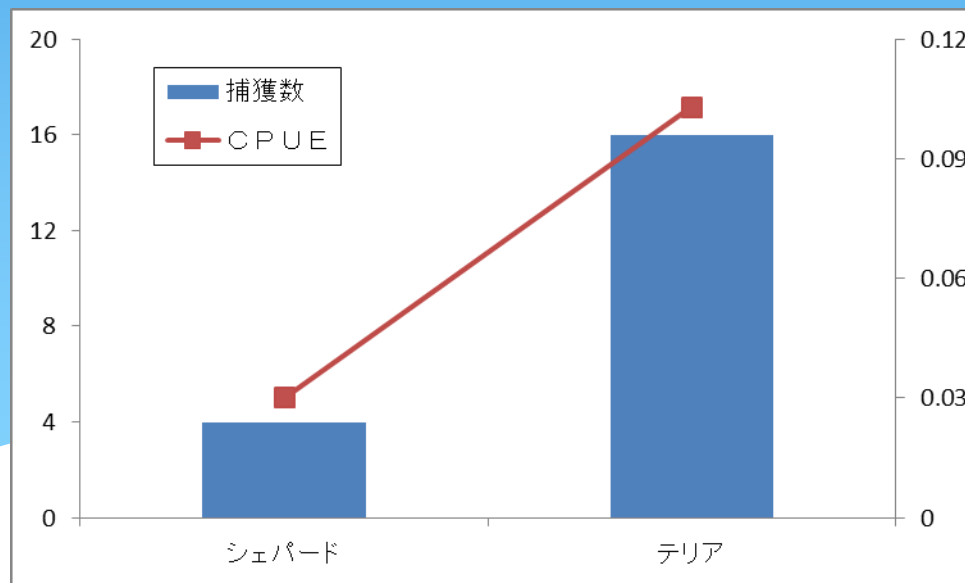


図1 犬種別の集中捕獲時の捕獲数及びCPUE

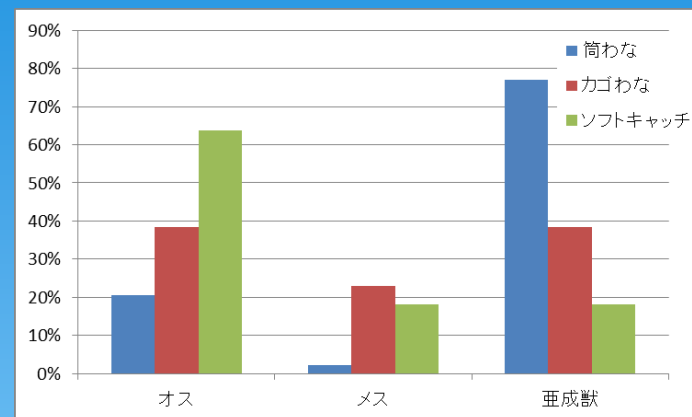


図2 平成24年度のわな種別捕獲割合

No.	わな種	捕獲日	性別	年齢	体重
1	カゴわな	6月21日	オス	亜成獣	463
2		7月5日	メス	亜成獣	416
3		7月12日	メス	亜成獣	344
4		8月10日	オス	亜成獣	474
5		10月5日	オス	成獣	578
6		10月12日	メス	成獣	608
7		10月27日	メス	亜成獣	379
8		10月5日	メス	成獣	569
9		12月11日	メス	成獣	447
10		12月28日	オス	成獣	1000
11		1月12日	オス	成獣	753
12		1月26日	オス	成獣	990
13		2月6日	オス	成獣	661
1	ソフトキャッチ	10月23日	オス	亜成獣	521
2		10月23日	オス	亜成獣	577
3		11月7日	オス	成獣	793
4		11月21日	オス	成獣	717
5		11月24日	オス	成獣	861
6		11月24日	オス	成獣	924
7		1月24日	メス	成獣	544
8		1月24日	メス	成獣	547
9		2月12日	オス	成獣	1074
10		3月16日	オス	成獣	845
11		3月28日	オス	成獣	865

表4 集中捕獲による捕獲個体概要



# まとめ

## 【探索後の集中捕獲の結果】

- \* 通常の捕獲と比較すると、探索犬による探索後の捕獲の方が捕獲率が良い。
- \* テリアとシェパードの探索を比較すると、テリア探索後の集中捕獲が高い値を示した。
- \* 集中捕獲は成獣の捕獲効率が高く、体の大きな個体がよく捕獲された。
- \* 集中捕獲では成獣メスの捕獲効率が高い結果となった。

以上の事から考えると、面的探索が可能なテリア探索犬は集中捕獲を行ううえで、非常に有効なツールとして評価ができる。



今後、効果的な捕獲を推進するためにはテリア探索犬及びハンドラーの確保が重要となる。